

令和8年4月1日

長与町議会 議長 安藤 克彦

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条第2項の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 議会広報研修会（長崎県町村議会議長会）
講演 「伝えるチカラを強化する」～議会広報編集術・即効 10～
講師 矢嶋 洋美 氏
2. 研 修 日 時 令和7年10月9日（木）13時15分～16時15分
3. 研 修 場 所 長崎県市町村会館（長崎市）
4. 研 修 目 的 議員の資質向上及び議会の活性化に資するため
5. 所 見 （記載は議席番号順）

【堀 真 議員】

「伝えるチカラを強化する議会広報編集術」をテーマに、議会だよりを作成する際の基本やレイアウト、読者を引き込むポイントなどについて、講義と各議会の議会だよりを実際に講評していただきました。昨年の研修会では議会だよりのレイアウトで良い評価をもらっていた記憶がありますが、個人的には優等生感が抜けずどこか目を引くようなパンチが欲しいと感じていました。今年は表紙デザインや特集記事、予算ページのところで辛辣にアドバイスをくださいとお願いしたところ、写真の精度や裏表紙の集合写真がいらぬこと、予算ページでは写真サイズがバラバラで落ち着かないレイアウトになっていたことに部分的なアドバイスをくださいました。

研修を受けて感じたことは、やはり一番大事なところは手に取ってもらえて読んでもらうことであり、読みやすさを追求し、全体的に文字数を減らして文字の大きさを大きくしたり、一般質問や予算では分かりやすくかみ砕いた解説を掲載して学生でも読めるような工夫が必要であると感じました。あとは全体的なデザインや色づかいを大幅に変更したいとも感じました。

聞くとところによると、本講師は議会だより全体のデザインのアドバイスもやられているそうなので、個人的には議会だよりのデザインを何よりも一新したいと考えていたため追加で受講できたらと思いました。どこか平成初期のようなザ優等生デザインを卒業し、手に取ってもらえて読んでもらえるような内容にしていきたいです。

【藤田 明美 議員】

議会だよりを通して議会や議員の存在意義を、より分かりやすく町民の皆さまへ届ける重要性を学びました。特に「町民の声」を積極的に掲載し、読者が自分ごととして感じられる工夫が必要だと先生から助言をいただきました。これからは写真や見出しにも力を入れ、読みやすく親しみやすい紙面づくりを心がけます。町民の皆さまにもっと身近に感じていただける議会広報を目指していきます。

【岡田 義晴 議員】

本研修会は「伝えるチカラを強化する」～議会広報編集術・即効 10～と題して、議会広報アドバイザー/(株)会議録センター編集部長の矢嶋洋美氏による3時間の講演形式であった。

講義の前半では、議会だよりの発行意義と役割、これまでとこれからと題して議会だよりが議会の情報公開の重要な一つと位置づけであると共に取りに行かなくても情報が届く「プッシュ(Push)型」の紙媒体としてより強い存在との指摘がなされた。また、町民にとっては「議会だより＝我が町議会」であり、読み物としてわかりやすく、チームとしての議会の存在意義をも知らしめる強力なコミュニケーションツールとして活かすも活かさぬも議会次第との鋭く厳しい指摘もされた。講演の冒頭、矢嶋氏が、私は町民目線で各町議会の議会だよりの指摘をすとの断りが、なるほど納得のいくものと感じた次第であった。

講演の後半からは、議会広報診断カルテと題して7つの町議会の議会だよりの「診断」を実際の広報誌面をつぶさに読まれて様々な項目ごとに「診断」をされた。それらの項目は、用紙、印刷、綴じ、色使い、主要フォントそして1ページあたりの記事関連写真の枚数など多岐にわたりチェックと診断がなされた。

本町を含め7つの議会だよりが、講師の視点と提案としてそれぞれ3点の指摘がなされ同時に次号以降の提案として3点の指摘もなされた。私が感じた7つの議会だよりに対する矢嶋氏の指摘の中にある共通するコンセプトは、作る側ではなく、読み手の側に立って「読んでもらえる」議会だよりを作るのではないかと推測する。町民にいかに手に取ってもらえるか、いかに1ページをめくってもらえるかがここに集った7つの議会の広報担当の議員の思いに違いない。とすれば矢嶋氏の各議会だよりへの鋭い「診断」は屹度、大いに参考になったと思う。我々議会広報担当者も「次回以降の提案」をしっかりと咀嚼してチームとして強く取り組み、町民に読んでもらえる議会だよりを作っていきたい。

【八木 亮三 議員】

(株)会議録センター編集部長の矢嶋氏による、議会広報紙についての講演と、参加7町の議会だよりの個別講評でした。

最初に、町民にとっては「議会だより＝我が町の議会」であり、表紙はもちろん、表紙を開いた次の2・3ページが最も重要で、そこで「次のページも読みたい」と思ってもらえるように読者の心をつかまなければその先は読んでもらえないこと、そして読者の心をつかむためには、2・3ページに必ずしも議案を載せる必要はなく、特集記事を掲載するなどの工夫も必要だという話がありました。2・3ページが重要だとは認識していましたが、だからこそ一般会計予算・決算などの重要な議案を載せるべきものだという思い込みがあったので、今後はそこに特集ページをあてるなど、柔軟に考えていきたいと思います。

また、我々議員にとっては議会だより写真や主張が掲載されることが当たり前であるため

意識していませんでしたが、町民にとっては自分や知り合いが公的な広報紙に掲載されることは特別なことで、それをきっかけに議会だよりへの興味・関心をもってくれることもあるということで、広く多くの人にインタビューを行うのは難しいとしても、記事内容によっては町民からの一言コメントを写真付きで載せるなどすることで、興味を持ってくださる方を増やす試みは挑戦してみてもいいと思いました。

現行の議会だよりの診断では「みんなの議会」は写真の数および写真のキャプションのレベルは高く、一般質問ページの構成や用語解説も高い評価をいただきました。しかしHP掲載データの写真解像度の低さや住民の参加がないこと、裏表紙の議席写真が不要であることが改善点として指摘いただきましたので、一つずつ委員会で協議し、できることから順次改めたいと思います。

文字数や写真の数などにルールがない(または、ルールがあっても守っていない議員がいる)他町議会が思いのほか多く、その点がかかなり厳密にルール化されているからこそ本町議会の議会だよりは一定の質を保てていると思うので、過去の広報広聴委員の方々の尽力に敬意を感じつつ、この先もその質を維持できるよう努力しなければならないと感じています。

【松林 敏 議員】

今回の研修は県内の各町の議会だよりを事前に診断していただき、その診断カルテや講師の方の講評をもとに、誌面構成や見出しの効果、写真の重要性などの話があり、その中に細やかなテクニックを散りばめて研修が進められました。とても充実した内容を面白おかしく説明されている事で、集中して受講することができました。

まず初めに議会だよりの役割として、議会の情報公開の手段であるが、自治会加入世帯に対し、プッシュ型で情報を届けることができるので、紙媒体の議会だよりは強いツールであると説明がありました。多くの住民の方に読んでもらえるよう、紙面構成について抜本的に考え直す必要があるのかなと思いました。

住民の写真とコメントを掲載することで、議会をより身近なものと感じてもらおうというのが最近の流行りとしてあるようです。本町の議会だよりについても住民の登場をさせる方法を検討すべきなのかなと感じました。

個人的に今後の議会だよりの紙面づくりで力を入れたい点は、見出しの大切さだと思いました。堅苦しいものではなく、読みたいと思わせるような工夫をしていきたいです。

今回の研修の講師は議会だよりのいわばプロの方に添削していただき、もっと改善が必要な点を挙げていただきましたが、もう一步踏み込んで改善策まで提案いただくような研修を受けたいと感じました。

【西田 健 議員】

- 他町議会の広報誌を見比べながら、町民の立場に立って、工夫、改良点等を知ることができた。

- 今後の編集作業は、見出しや写真の効果、レイアウト・内容の編集を形だけにとらわれず、意見を出し合うことから始めたい。

- 議会での活動をより身近に感じてもらえる「町民のための議会だより」とするため、編集時点から、読んで・伝えることを念頭において取り組んでいきたい。

【浦川 圭一 議員】

今回の研修において、今後の参考になると思ったことが2点あり、そのことについて報告します。

1点目は、本町の研修に対する記事について、いついつ、こういう研修を行った、というような読者が全く興味を示さないような内容になっている。書くのであれば、その研修内容をいかに活用したか、今後活用していくなどの目的、結果などを示すべきだとの指摘があった。以前委員会において同様の申し出をしていましたが、一向に改善されないで改めて申し出をしようと思っている。

2点目は、講師の経歴等を見せてもらったら、実績として27年間議会だよりの現役編集者として、企画提案、紙面デザイン、写真加工、校正に至るまで実務に携わっている、とのことであった。本町においても、今後より良い紙面づくりを目指していくのであれば、議会後の編集の過程で、専門家を一員に加えた対応が必要ではないかと思っている。

実はこのことも、ずいぶん前になりますが、埼玉県寄居町に研修に行ったときの報告書で専門家を交えた紙面づくりも必要ではないかとの提案をしているが、全く問題にもされていないので、改めて提案してみようと思っている。

他にも参考となる提案をいただき、有意義な研修であった。

【安部 都 議員】

今回の議会広報の研修会は、これまでにない素晴らしい研修だったと言っても過言ではない。何故なら、これまで、広報をより良く見せるための技術とその手法が主だったが、今回は、議会だよりの「発行意義と役割、これまでとこれから～」と題して、議会だよりの意義と議会だよりの変遷「変化・進化」を紹介された。正に、私が目指している、「住民と共に歩む議会」の議会だよりの意義と役割の進化だったからだ。講師の説明でもあったが、当初「議会の報告時代」から→「住民掲載スタート時代へ変化し」→現在は、「強力なツールとしての活用時代」へと変化しているとのことだった。住民との対談・インタビューや議員が取材し、議会と住民双方のコミュニケーションが図られ、議員や議会を住民が身近に感じる人が増えてきているとの説明だった。このことでも言えることは、「議員・議会の見える化」が果たされているのではないかと思う。ましてや、住民から「議会・議員が何をやっているか、全然わからない」との意見がこれまで聞かれていたが、住民の声を議会だよりに反映させることによって、一方的発信から、住民が「自分ごと」として捉え議会にも理解を示すようになるとのことだった。また、「議会だよりをとおして町民と議会のよりよい関係をつくる」ことが重要だと言われた。「住民の意思を行政に反映させる使命」を負っている議員だからこそ、そのような役割を果たすことが必須ということだ。最後に、参加7町の診断カルテをしていただいた。議会それぞれの特徴があったが、やはり、ダントツ、小値賀町議会の議会だよりは、ずば抜けて迫力感と訴え感があり、読者が「手に取って見たい！」と思える議会だよりの発信だった。写真と見出しの手法により、読者を記事に引き込むことを意識しなければならないということだ。我が長与町議会だよりについては、一般質問やキャプションで物言う写真は全国トップレベル等との評価をいただいたが、課題としては、①HP掲載データの写真の精度を改善すること。②住民の「近づく・巻き込む」双方向性の意識が必要であるということ。③裏表紙の活用を毎号議席の

掲載の検討余地あり、というアドバイスを受けた。発信型の一方向性で来た議会だよりの是非を見直す時が来たようだ。これを機会に委員会の委員皆さんと、共に士気を高め「住民が手にとりたくなる、読みたい議会だより」の発信に努めていきたい。

表紙（写真）とインパクトのあるキャプションとタイトルで特に読者の注意を引きつけるためには、2ページから3ページが、「住民が読みたくなる議会だよりとなるので重要！」ということだった。

新たな視点で、住民の声を取り入れ、「住民がもっと読みたい」「強力なコミュニケーションツール」として、広報・公聴機能の増進と議会だよりによる「住民と共に議会・議員の見える化」を果たしていかなければと強く決心した次第です。とても実践できる参考となる議会だよりの研修でした。ありがとうございました。